

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4570900185		
法人名	社会福祉法人えびの朋友会		
事業所名	グループホーム顔なじみ		
所在地	宮崎県えびの市大字榎田579番地36 (電話) 0984-25-4557		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年1月23日

【情報提供票より】 (平成20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年12月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤14人, 非常勤8人, 常勤換算19.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	192 円	昼食	294 円
	夕食	294 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成20年11月20日現在)

利用者人数	27名	男性	7名	女性	20名
要介護1	6	要介護2	11		
要介護3	8	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 84.6歳	最低	73歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人相愛会桑原記念病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間に位置し特別養護老人ホームに隣接した3ユニットのホームである。同法人に病院があり、緊急時や定期的な医療管理はできており、安心できる体制が取られている。

「顔なじみ」の関係を大切にしたい理念が掲げられており、家族的なケアや利用者本位を大切にしたいケアを目標にし全職員で取り組んでいる。訪問時にも、業務優先的なケアではなく、利用者の希望に応じた支援に取り組む姿勢がうかがえた。感染対策委員、事故対策委員、身体拘束委員等があり、委員の計画等で勉強会が定期的に行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善に向けて対策をたて、運営推進会議等や、地域に働きかけたりと取り組んでいるが、十分動き出している段階までは至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体会議にて評価の意義の説明を行い、求められている内容の説明は行っている。その後、各項目に沿って自己評価しているが、全職員では取り組めていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2か月に1回開催し、利用者の状態やホームの行事の報告を行っている。行政や地域代表者で構成されている推進委員への意見交換会では、勤務体制や金銭管理、外出の支援やボランティアの活用状況、地域との交流などさまざまな意見を検討し有効な話し合いができています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	3か月に1回「顔なじみ便り」や担当職員からの手紙、出納帳を同封し発送している。利用者の生き生きしている表情の写真や暮らしぶりを載せ家族へ伝えている。来訪時や電話でも随時状況を報告し、継続した関係づくりに努めている。家族代表者には運営推進会議に参加していただき、家族の意見を引き出す努力をしているが、家族会は組織されておらず、家族同士が集まり話し合える場面がない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームでも、地域との交流を図るため試行錯誤しているが、交流は十分とはいえない。運営推進会議でも、地域との交流に関する議題が上がり、ホームも地域も交流の必要性は感じている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はわかりやすい内容ではあるが、開所当初からの理念である。地域密着型サービスが重要視され、ホームでも現状に即した理念を持ちたいという思いがあり、各職員に依頼しそれぞれの理念はあがってきている。	○	全職員からの思いのこもった理念が準備されている段階なので、是非、現状に即した理念作りを全職員で取り組んでほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念にある「顔なじみ」の関係を大切にし、理念が日々のケアの実践に生かされるよう、毎月の職員会議で、意識づけしている。管理者は、ケアの実践を通して理念を具体化し職員と話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームでも、地域との交流を図るため試行錯誤しているが、交流は十分ではない。運営推進会議でも、地域との交流に関しては、議題に上がっており、ホームも地域も交流の必要性は感じている。	○	地域との交流が深まることで、利用者の生活の質が上がることを考えると、地域交流は是非取り組んでほしい。また、ホームが地域の中の一つの大切な機関として、地域にどのように還元できるかを考え続けてほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体会議にて評価の意義の説明を行い、求められている内容の説明は行っている。その後、各項目に沿って自己評価しているが、全職員では取り組めていない。前回の評価の改善に向けて対策はしているが、十分できていない。	○	改善対策には、法人の体制も必要と考えられるが、できることから是非取り組んでほしい。

宮崎県えびの市 グループホーム顔なじみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回開催し、利用者の状態やホームの行事の報告を行っている。推進委員への意見交換会では、勤務体制や金銭管理、外出の支援やボランティアの活用状況、地域との交流などさまざまな意見を検討し有効な運営ができています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議にも行政担当者が参加しているが、日ごろからホーム長や管理者は必要に応じて連絡を取るなど、連携を図るようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3か月に1回「顔なじみ便り」や担当職員からの手紙、出納帳を同封し発送している。利用者の生き生きしている表情の写真や暮らしぶりを載せ家族に伝えている。来訪時や電話でも報告し、継続した関係づくりに努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらい、家族の意見を引き出す努力をしている。また、家族からの意見や苦情を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりに努めている。家族会は組織されておらず家族同士が集まり話し合える場面がない。	○	是非、家族間同士の交流や職員との交流を盛んにし、意見や情報、協力が得られる関係づくりに更に努めてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内の異動はあるが、「顔なじみ」の理念を基本に、職員は努めて利用者に声をかけ、なじみの関係が保てるよう配慮している。3ユニットで職員も多いことから、職員の顔や名前を覚えていただくための交流に、日ごろから努めるなどの工夫をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列法人にあるグループホーム職員が一同に集まり、3か月ごとに研修が行われ、職員の質の向上に取り組んでいる。また、ホーム内勉強会や研修後の報告会も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人にグループホームがあり、交流や研修の機会があり、交流したことで、意見や改善に向けたヒントが得られ有効に活用している。現段階では、主にホーム長が交流しているが、今後職員交流が図れるよう計画している。地区別協議会にも参加し交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や日中での体験入居も取り入れ、なじみの関係を作ったうえで、入居へと進めている。また、新しい利用者が入居される場合、現に入居されている利用者にもダメージを受けないような工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の笑顔や生き生きとした姿を大切にし、利用者のさまざまな経験を学ぶことを忘れずに、共に喜ぶことを心がけている。また言葉遣いに注意したり、個々の利用者が傷つくような内容は控えるなど配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の希望に沿えるように、会話やしぐさを観察し、利用者本位のケアにつなげるように心がけている。思いの把握が困難な場合は、ミーティングで検討したり、家族から情報をもらい対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の要望を取り入れ、担当者が中心となり職員全体で検討し作成している。来訪の少ない家族には、電話連絡を行い検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の作成は3か月ごとに行っているが、毎月のモニタリングは行っていない。	○	毎月の見直しは、介護計画の共有や計画の評価や改善につながると考える。利用者ごとに担当者がいるので、モニタリングも、毎月の勉強会等で取り組んでほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の暮らしが安心して継続できるように、利用者・家族の状況に応じ、通院、特別な外出等対応している。個々の希望に応じ、ドライブや買い物、散歩に行き、日常生活の中で刺激が得られるような機会を作っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が系列法人の病院を掛かりつけ医としている。週2回は、担当医が訪問し、定期的な健康管理ができています。急変した際には家族にも連絡を取り、ホームの職員が通院介助している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化した際のケアとしては、ホームの職員が対応できるように取り組み方針はできているが、見取りの段階は、病院に願う方向で方針を共有している。利用者の状態に応じ、そのつど家族、職員、病院と話し合いながら取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議では、利用者に対しての言葉かけや接遇に関する教育をしている。気になる対応に関しては、そのつど職員に説明している。その方の触れて欲しくない内容を把握し、誇りを損ねないように注意していると職員のヒアリングより得られた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを崩すことなく、その方の体調や希望に沿いながら支援している。利用者本位を大切にし、利用者が望むことはできる限り、時間をおかずに対応したいという職員の思いがうかがえた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と昼食は、施設が作っている。夕食は、ホームが献立をたてユニット毎にメニューを分担・調理し配食している。朝・夕は検食者のみが、昼食は、職員も一緒に食卓を囲んでいるが、職員は弁当持参である。食事の準備（盛り付けや茶碗の準備）や片づけは職員と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた入浴支援を行っている。入浴拒否のある利用者に対しては、スムーズに入浴できるよう、上手に声かけしている。夜間の入浴の希望があれば、支援できる体制はある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや洗濯物干し、食事の準備や後片づけ、畑仕事や収穫、庭の手入れと利用者の役割が準備されている。外食やドライブ、将棋など気晴らしの支援も行い、ホーム内に閉じこもらないよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内の散歩や近隣の散歩、買い物と外出する機会がある。ドライブや外食を計画し戸外に出ている。外出願望の方には、一緒に歩いたり、ドライブしたりと体制は整っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出願望のある方がおり、外出時には、常に職員が付き添う対応をしていた。できる限り、鍵をかけないケアを実践しているが、職員の手薄になる時間帯に、短時間のみ鍵をかけていることはある。職員は、鍵を掛けることでの弊害は十分理解している。	○	利用者の安全確保も求められることであるが、同じように鍵を掛けることの弊害も利用者にとって重要なことである。引き続き、鍵を掛けないですむケアの体制を検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との避難訓練を定期的実施し、ホーム内訓練も実施している。しかし、地区の方を巻き込んだ避難支援体制が十分できていない。地区の消防団との関係作りはできているが、合同の避難訓練とまでは至っていない。災害時の備蓄は十分にできている。	○	地域住民や地区の消防団との連携を図り、災害等に向けての協力体制を作り上げてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は把握しており、状態の変化に対応できるようにしている。栄養管理が必要な方に対しては、併設施設の栄養士の助言を聞いている。晩酌の好きな利用者には、週に数回、楽しむ機会がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに、建物の中央に利用者が集まる共用空間がある。リビングは、広々としており、内装は柔らかな色使いで清潔感にあふれていた。昼間には、コタツがおかれ、季節感が感じられた。空気のよどみもなく、採光も適切であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みをお願いし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。部屋によっては、位牌や冷蔵庫等が準備されていたり、使い慣れた持ち込みもあり工夫している。		

※  は、重点項目。